

2025年度博士論文受理・審査手続きに関する確認事項

<1>2026年3月授与の場合

①予備論文審査申請	4～6月	申請者→主・副指導教員への予備論文の提示→学部事務2課→後期課程主任→研究科委員会 ①予備論文審査申請書(様式あり)1通 ②博士論文要旨(様式あり)3通 ③履歴書(様式あり)1通 ④研究業績一覧(様式あり)1通 学部事務2課への提出書類には、予備論文、予備論文(PDF版)を記録した電子媒体(USBやDVD、CDなど任意で1部)は含まれていないが、予備論文審査申請書に正副指導教員が承認印を押す際に、提示しなければならない。
②予備論文審査委員会の設置	5～7月	(主指導教員→)後期課程主任→研究科委員会 予備審査委員会は、主指導教員、副指導教員を含む3～4名で構成。委員は後期課程主任が提案する。
③予備論文審査委員会への予備論文提出	5～7月	申請者→審査委員会 予備論文4部、予備論文(PDF版)を記録した電子媒体(USBやDVD、CDなど任意で1部)を、申請が研究科委員会で承認された後に審査委員会に提出する。
④予備論文審査委員会	6～10月	申請者の口頭報告と予備論文にもとづく審査・論文指導。
⑤予備論文審査結果報告	6～10月	予備論文審査委員会(主指導教員)→研究科委員会
⑥本審査の申請	申請期限(論文提出期限) 2025年10月31日(金) 教務事務センター窓口 終了時刻	簡易製本(ファイル綴じ可)5部、PDF(USB、DVDなど任意)および学位申請書5部(正本1、コピー4)を教務事務センターに提出 →学部事務2課→指導教員・後期課程主任・研究科委員長 ※研究指導を受け終えた者が、9月19日までに受理された場合、翌学期分の学費が減免になる。詳細は教務事務センターに問い合わせること。
⑦受理審査		研究科委員会:審査委員5名の決定 (受理報告)→学部事務2課→教務事務センター→申請者 →部長会
⑧論文審査	11月上旬～	提出された論文は審査委員会のもとで管理。修正可。 審査は原則として、申請のあった学期末までに終了しなければならない。万が一特別な事由のあるときは、研究科委員会の議を経て審査期間を1年以内に限り延長することができる。 審査期間中に在籍学期満期を超えた場合は研究科委員会の議を経て論文博士としての審査に切り替わる。
⑨公聴会	1月上旬	公聴会は、最終試験直前とする。審査委員は全員出席のこと。
⑩最終試験	1月上旬	審査委員会は、論文の最終確定版を審査報告書とともに学部事務2課へ回付。
⑪審査報告	1月下旬	研究科委員会 論文3部を回覧。審査報告書配布・回収。 審査報告終了後、申請時に提出されたPDF(USB、DVDなど任意)データを研究科から申請者へ返却。 申請者は、論文のくるみ製本版1部と最終版のPDF版1部を学部事務2課に提出する。 提出された論文は、学部事務2課→主査により確認。 審査結果報告書、博士学位論文審査報告書は総長と独立研究科事務室へ。
大学院委員会審議	3月初旬	
学位授与	3月	

<2> 2026年9月授与の場合

①予備論文審査申請	10～12月	申請者→主・副指導教員への予備論文の提示→学部事務2課→後期課程主任→研究科委員会 ①予備論文審査申請書(様式あり)1通 ②博士論文要旨(様式あり)3通 ③履歴書(様式あり)1通 ④研究業績一覧(様式あり)1通 学部事務2課への提出書類には、予備論文、予備論文(PDF版)を記録した電子媒体(USBやDVD、CDなど任意で1部)は含まれていないが、予備論文審査申請書に正副指導教員が承認印を押す際に、提示しなければならない。
②予備論文審査委員会の設置	11～1月	(主指導教員→)後期課程主任→研究科委員会 予備審査委員会は、主指導教員、副指導教員を含む3～4名で構成。委員は後期課程主任が提案する。
③予備論文審査委員会への予備論文提出	11～1月	申請者→審査委員会 予備論文4部、予備論文(PDF版)を記録した電子媒体(USBやDVD、CDなど任意で1部)を、申請が研究科委員会で承認された後に審査委員会に提出する。
④予備論文審査委員会	12～4月	申請者の口頭報告と予備論文にもとづく審査・論文指導。
⑤予備論文審査結果報告	12～4月	予備論文審査委員会(主指導教員)→研究科委員会
⑥本審査の申請	申請期限(論文提出期限) 2026年4月末日 窓口終了時間まで	簡易製本(ファイル綴じ可)5部、PDF(USB、DVDなど)および学位申請書5部(正本1、コピー4)を教務事務センターに提出→学部事務2課→指導教員・後期課程主任・研究科委員長 ※研究指導を受け終えた者が、3月末日までに受理された場合、翌学期分の学費が減免になる。詳細は教務事務センターに問い合わせること。
⑦受理審査	5月上旬	研究科委員会:審査委員5名の決定 (受理報告)→学部事務2課→教務事務センター→申請者→部長会
⑧論文審査	5月上旬	提出された論文は審査委員会のもとで管理。修正可。 審査は原則として、申請のあった学期末までに終了しなければならない。万が一特別な事由のあるときは、研究科委員会の議を経て審査期間を1年以内に限り延長することができる。審査期間中に在籍学期満期を超えた場合は研究科委員会の議を経て論文博士としての審査に切り替わる。
⑨公聴会	7月上旬	公聴会は、最終試験直前とする。審査委員は全員出席のこと。
⑩最終試験	7月上旬	審査委員会は、論文の最終確定版を審査報告書とともに学部事務2課へ回付。
⑪審査報告	7月下旬	研究科委員会 論文3部を回覧。審査報告書配布・回収。 審査報告終了後、申請時に提出されたPDF(USB、DVDなど)データを研究科から申請者へ返却。 申請者は、論文のくるみ製本版1部と最終版のPDF版1部を学部事務2課に提出する。 提出された論文は、学部事務2課→主査により確認。 審査結果報告書、博士学位論文審査報告書は総長と独立研究科事務室へ。
大学院委員会審議	9月	
学位授与	9月	